

バイタルリンク運用好事例紹介（その5）

～医科歯科連携タグの紹介～

●タグ付け機能

既にご存知の通り「タグ付け機能」とは、連絡帳にメッセージを登録する際にその分類として合わせて登録することにより後々メッセージを絞り込んで確認することができる機能です。

バイタルリンク利用開始からこれまでの10個のタグを運用してまいりました。2021年2月24日よりこれらに加え、連絡帳へご登録いただく情報をさらに時系列での経過を確認しやすくするため、新たに6つのタグの運用を開始しました。

今回は、追加されたタグの中から医科歯科連携を目的としたタグの事例についてご紹介します。

【新規追加タグ】

【既存のタグ】

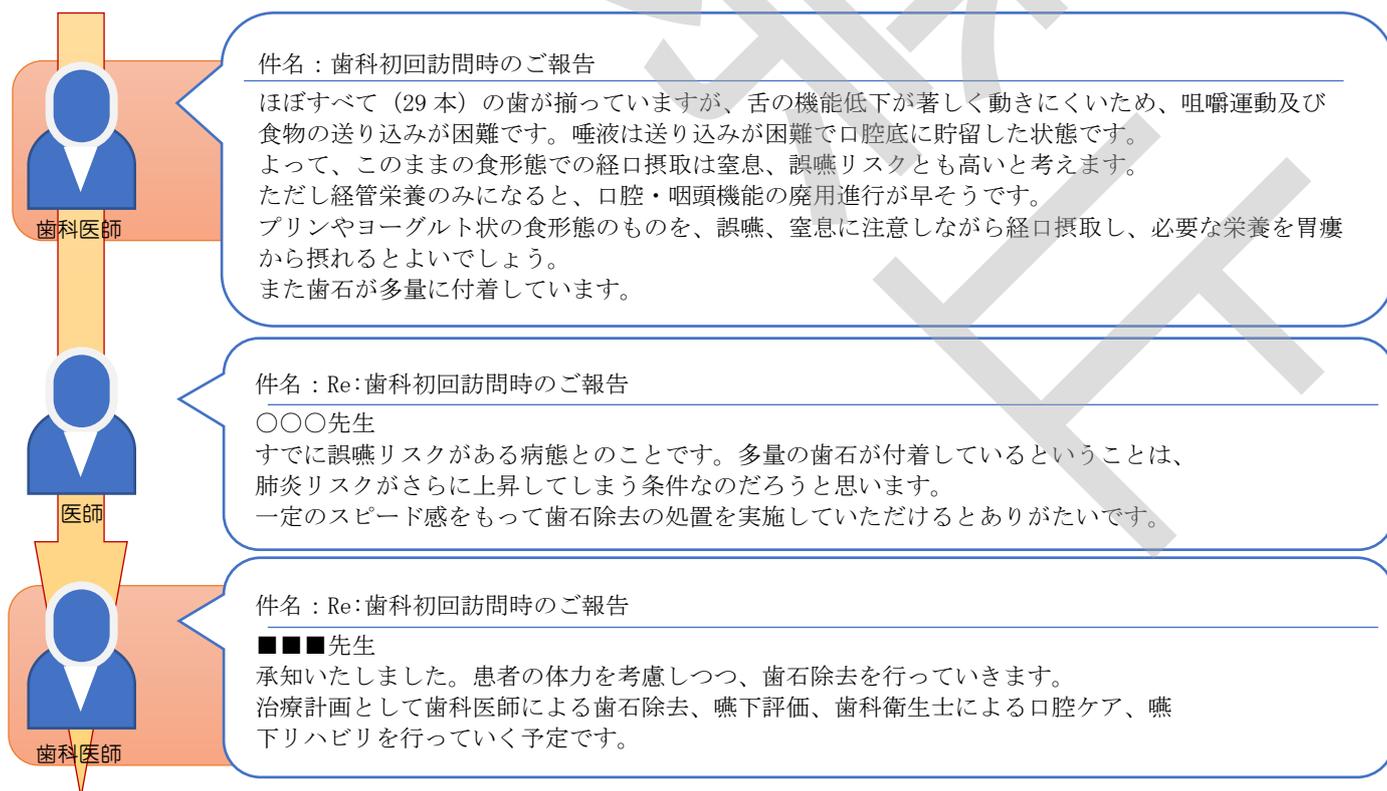
ACP
検体検査
診療画像
臨床写真
調剤情報
ケアプラン情報
診療情報提供書
転倒
行方不明
発作

【2/24より導入したタグ】

- 医療トラブル
⇒医療機器にまつわるトラブル等
- 合併症・急性増悪発症
⇒合併症や急性増悪が発症した際の情報
- 要注意情報
⇒患者さんやご家族が嫌がるような処置や事象等注意事項
- 歯科・口腔・嚥下情報**
⇒歯科や口腔嚥下に関する情報
- 身体・高次機能
- 栄養関連情報

《実際の登録事例》

- 事例：ALS患者への訪問歯科診療導入と多職種での情報共有（歯科医師、主治医、訪問看護師）
歯科訪問診療を導入・報告を受け、まずは歯石除去についての方向性を共有。



● 歯科医師からの報告を受け、経口摂取の状況、今後の摂食状況について共有。



医師

件名：診療報告

本日、病気の進行とともにどうしても今後生じてくる呼吸機能の低下という観点も踏まえた経口摂取のリスクについて改めて触れ、VE 後にまた相談する方針を本人と確認しました。胃瘻を使い始める（1日1回〜）ことに関して、ご本人何度か深く頷かれ（初めてみる反応でした）、ご自身の中で納得されたように感じました。



歯科医師

件名：歯科診療報告

診察時に可能な範囲で全顎的に歯石除去しております。今後は無理ない範囲で都度除去していきます。またご主人と日程調整致しまして、嚥下内視鏡検査を●月●日に行う事になりました。検査後に所見を報告させていただきます。



歯科医師

件名：嚥下内視鏡検査報告

お食事について情報共有のためご報告させていただきます。嚥下内視鏡検査を行いました。試験食品はドリア（冷凍食品）とゼリー飲料を用いました。

……状況の詳細報告（省略）……

以上より、咀嚼は困難であるが、送り込みまで行えれば嚥下機能自体は現在の食事を継続することは可能であると考えます（あくまで現時点）。今後は窒息防止に重点を置きつつ、誤嚥の頻度が増えたら食事形態や量を調整していくと良いと考えます。

食事指導といたしましては、咀嚼及び口腔内での唾液との混和ができないので、ばらつくものやパサつくもの、一塊が大きいものは避けるよう指示しました。

今後は診療毎に摂食状態の評価を行い2、3ヶ月毎に嚥下内視鏡検査を行う予定です。変化等ありましたらご報告させていただきます。

● ご家族のお気持ちと経管栄養開始について共有。



医師

件名：Re: 歯科初回訪問時のご報告

【共有】ALS 病型からの進行予測と患者・家族の認識に影響しうる病型の特徴

一6カ月以内に呼吸筋障害が明瞭になると予測するが、本人・家族にとっては緩やかに進行して見えている可能性がある



歯科医師

件名：Re: 歯科初回訪問時のご報告

一見した所の状態や家族本人の感覚と、実際の病状の進行具合にズレがある可能性を常に考慮していきます。今後客観的口腔機能、嚥下検査など行い情報共有したいと思います。



訪問看護師

件名：Re: 歯科初回訪問時のご報告

訪問時に、看護師から本人に対し、口から食べることへの意向やリスクの理解の確認をしようと試みたところ、本人より、病気についてはこれまで怖くてよく調べていない、病気の経過についてよく知らないという内容を話され、しばらく涙されたとのことでした。その日は泣き終わるまで寄り添うケアを行ってきています。

病気の受容の段階としては、まだまだ初期段階から進んでいないとアセスメントしています。気持ちに寄り添いつつ、進行のスピードを考えると大事な意思決定の時期もすぐそこにきているため、必要な情報提供をタイミングよく行っていけると良いと考えています。



訪問看護師

件名：今日の訪問の報告

昨日ご主人に電話して今日の訪問で経管栄養をさせてほしいことを伝え、快諾ありました。するとご主人が仕事を早めに切り上げて帰って来てくださり、訪問中会えました。またご主人からお母さんも連れてきますという言葉が聞かれ、ご主人とお母さんに経管栄養方法を指導しました。今後1日1回は行っていきたいことを共有したところ、本人からは「お願いします」お母さんからも前向きな発言が聞かれ、S T 訪問時にお母さんと一緒に経管栄養を実施して行くことを決めました。